

保健体育科

主任：川本 往立

(1) 今年度の目標

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
- ② 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
- ③ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成
- ④ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成

(2) 主な取り組みの計画

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
 - ア 集団的活動や自己の身体表現などの活動を通じてコミュニケーション能力を育成する。
 - イ お互いに練習や作戦を考えたり、改善の方法などをお互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力を育む。
 - ウ 基礎的な運動の技能や知識を生徒の状況に応じて伸長させ、それらを活用することで、自らの運動課題を解決するなどの学習をバランスよく行う。
- ② 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上
 - ア 健康・安全について総合的に理解することを通して、健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断に基づく意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を培い、実践力を育成する。
 - イ 運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図る。
- ③ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成
 - ア 運動の実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質や能力を育てる。
 - イ 運動の実践を通して、健康の保持増進の実践力及び健やかな心身を育てる。
- ④ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成
 - ア 健康についての理解を深めることで、生きがいを持ち、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするように実践する。
 - イ 社会生活と健康についての理解を深めることで、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践できるようになるための基礎としての資質や能力を育成する。

(3) 授業アンケートの結果と分析

80%以上の生徒が運動量は「ちょうどよい」と感じているようである。また、約80%の生徒が、「上達するためにいろいろな練習方法が体験できた」と答えており、授業ではおおむね満足感を得られているのではないかと思われる。ただ、体力が向上したと感じている生徒は、約55%、生涯を通じて健康的な生活ができる能力が身に付いたと答えた生徒は、約60%と、自ら実践できている生徒は多くはないので、体力が向上したと実感できるような授業を、また、運動を自ら実践できる意識付けができるような授業を目指していきたい。

(4) 今年度の成果と課題

- ① 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成
 - ア お互いに協力して活動することはできている。お互いのコミュニケーションもよく取れている。今後もこの調子で取り組んでいきたい。
 - イ お互いに練習や作戦を考えるために、まずは基本的なことを身につける必要がある。種目によっては、基本的なことを身につけるまで時間のかかる種目もあり、限られた時間数の中で基

本から応用へと発展させる工夫が必要である。。

ウ 生徒が自らの運動課題を解決するまでに至っていない。もう少し時間があればしっかりとした基礎的な運動の技能や知識が身につくが、短い時間の中でも自らの運動課題を解決できる力を養っていききたい。

② 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上

ア 健康については理解を深めているが、安全についての認識が少ないようである。今後もっと多くの知識を身につけ、健康・安全の課題に直面した場合の正しい判断での意志決定や行動選択を行える実践力を育成する必要がある。

イ 運動は積極的に実践できているが、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力はまだまだ身につけていないように思われる。自分の現在の健康の状況、体力の状況を的確に把握させ、自分にとって今なにが必要かを考えさせることが大切だと思われる。

③ 明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成

ア 運動の実践は積極的に実施することができ、何らかの運動を生涯のスポーツライフに取り入れることにつながると感じられる。選択肢が多くなるようさまざまな種目を経験して欲しい。

イ ほとんどの生徒が運動を通して、健康の保持増進、健やかな心身を育てるということができている。将来の活力ある生活につなげていってほしいと考える。

④ 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成

ア 健康についての理解を深めることはできたが、それを現在及び将来の生活に結びつけるまでには至っていない。今の自分が健康であり、健康を管理するために何をしなければということを考えるのはなかなか難しいようである。理解はできているが実践する段階の危機感を感じられない。

イ 社会生活と健康についての理解も深めることはできている。これからは、自ら健康の管理をし、健康的な生活行動や健康的な社会環境づくりなどを実践するために何をしなければならぬかをもっと深めて考えていく必要がある。